

当事者意識をもって客観的に生活課題をとらえる授業をめざして

家政教育・藤田昌子

1. 授業の概要

(1) 対象授業の科目区分など

対象授業の科目区分：

学校教育実践コース（家政教育専修）・

生活環境コース

科目名：家庭経営学

登録学生数：40名（対象は、2回生で、中学校家庭科および高等学校家庭科の教員免許の取得をめざす学生，コース選択科目として生活環境コースの学生，他コースの学生が履修している。）

(2) シラバスに掲げられた授業の目的，到達目標，関連するディプロマ・ポリシー（DP）

【目的】生活者として当事者意識をもって多面的な視座から生活の実態を把握し，個人の生活と社会とのかかわりについて考えることを通じて，私たちの生活の背景にある現代社会の諸課題を客観的にとらえ，問題解決できる生活者としての知識と資質を身につける。

【授業の到達目標】

- 1) 私たちの生活の背景にある現代社会の諸課題を客観的に把握できる。
- 2) 1) で把握した諸課題の解決に必要な知識を理解し，説明できる。
- 3) 変化した生活環境・多様化した価値観のなかで，生活者として主体性のある意思決定の視点をもつことができる。

【ディプロマ・ポリシー】

DP1

教科・教職に関する確かな知識と，得意とする分野の専門的知識を修得している。

（知識・理解）

(3) 授業の方法，形態，内容の概要

学生が家庭生活や現代社会における諸課題について常に関心を持ち，そして個人の生活が社会のあらゆる分野と関係・連動していることについての視野を広げ，当事者意識をもって個人の生活の背景にある現代社会の諸課題を客観的に把握できるようになるために，

以下のような工夫した。

- ・シミュレーション，ロールプレイング，グループワーク，KJ法，ゲーム形式など参加型学習を多用する
- ・体験学習（アクセシビリティの検証）を行う
- ・VTRを活用する
- ・関連する新聞記事の収集・考察を行うなど

(4) 今年度，特に意識して取り組んだこと

これまでは，各回の授業のねらいは，授業の始めに口頭で説明するだけであったが，今年度は，板書で示し，授業シートに記入することで，ねらいを意識化し，授業の見通しをもつことができるようにした。さらに，毎回の授業の終わりには5段階で学生が自己評価を行うようにし，自分の学びを意識化できるようにした。

2. 授業の達成度

(1) 学部DPとの対応

受講生33名から回答があり，下記のような結果となった。

DP1 知識・理解

1A 教育に関する知識の修得

| | |
|------------|-------|
| 十分貢献した | 48.5% |
| 貢献した | 51.5% |
| あまり貢献しなかった | 0% |
| 無関係であった | 0% |

1B 得意分野の専門的知識の修得

| | |
|------------|-------|
| 十分貢献した | 42.4% |
| 貢献した | 57.6% |
| あまり貢献しなかった | 0% |
| 無関係であった | 0% |

いずれの学生も「十分貢献した」「貢献した」と回答しており，授業の目標は達成したといえる。

(2) 授業振り返りシートの学生の学び（自由記述）より

達成できたと考えられる項目と関連する学生の記述を抜粋する。

①授業のねらいを板書で示し、授業シートを活用したことで、理解度が深まっている。

・毎回授業のねらいを具体的な言葉で示し、また生徒にそれを記入させ、理解度を示させることは、生徒にとって、本時の授業で自分は何を理解しなければならないかがわかり、また教員も本時の授業で教える内容が明確となるので、とても参考になりました（社会科の教員免許をもっており、機会があれば臨時の講師として働く予定でいることからとてもためになったこととして）。

・去年もこの授業を受けましたが、昨年と授業の形がだいぶ変わっていました。昨年とやる内容は同じというところもありましたが、今年の方が理解が深まった気がします。教科書があったり、板書や目標を書くプリントがあったりしましたが、これらによって後から見直しても思い出しやすい授業だったと思います。

②多様な学習形態を活用したことで、学びが深まっている。

・パワーポイントやプリント学習の座学から、ワークやビデオ学習、ロールプレイングもして、多様な側面から、様々な人の意見も取り入れながら学ぶことができた。全てが自分の将来に直接かかわることなので、今までの自分の行動と比較することや、これからの自分の生活を当てはめて考えることができた。

・ゲームやロールプレイングを通して、自分とは異なる立場の（フリーターの人、正社員の人、高齢者など…）に立って、現代社会における問題を考えることができた。

③当事者意識をもって家庭生活や現代社会における諸課題を捉えるようになっていく。

・今回授業を受けてみて、より多くの視点を持つことができるようになりました。目的にもあるように、今までほぼ無関心だった分野（生活保護、ハウジングプア…）にも当事者として意識を持って考えることができるようになりました。

・主体性を持って、当事者意識を持って考えることができるようになりました。今までは、どうせ自分には関係ない…といって目を向けることはりませんでした。今は、どうなのだろうと考えてみるようになりました。

・「知らなければ何もできない」という16歳の少女の新聞記事から、知らないで目を背けていたものにも目を向け、あらゆることを知ろうという認識が変わった。

・今の自分の生活の中だったり、自分とは異なる立場に立ったりして学習をするうちに、現代社会における様々な問題は、個人だけでなく社会全体が引き起こしたのものもあること、そして私には関係のない問題は一つもないことに気づいた。

・毎日、見聞きしている社会の問題、少子高齢化、ワーキングプア、ハウジングプアなどを自分ごととして捉えることで、より具体的に現実的な学びとなった。

・今の自分、将来の自分に関わる問題として、社会保障や住まい、労働、社会福祉について身近にとらえることができるようになった。

・社会福祉については自分自身が関わるのはまだ先の話だという思いがあり、認識が甘かったが、講義やバリバラ探しをして身近な事として感じる事ができた。

④授業で得た知識を自分自身や家族などの生活に活かし、生活者として主体性のある意思決定を行おうとしている。

・就活の際に雇用条件をしっかりと見るようになった。

・バイト先にサービス残業の改善を求めるように実際に学んだことを行動に移すようになった。

・自分の実生活で学んだことを意識するようになった。例えば、労働日数・時間をスマートフォンのアプリを使ってメモし、給与明細と見比べるようになった。

・ちょうど国民年金の手続き案内が届いていた時期だったため、授業を通して国民年金に対して関心を持ち、学生納付特例申請の手続きを行った（複数名の記述）。

3. 次年度への課題

本授業でもっと学びたかったことは、「特になし」が最も多かったが、次に「福祉」に関するものが多くみられた。3年次専門教育科目「子ども・家族福祉」の担当者と連携をしていきたい。